

# 2025 年度学校評価結果と 2026 年度重点目標

2026 年 3 月

恵泉幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

### 【教育理念】

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935 年（昭和 10 年）に設立した幼稚園です。幼い時に、自分が愛され、守られていることを感じることができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに育ちあう園であり続けます。

### 【教育方針】

- ・意欲のある子ども・・・一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る
- ・思いやりのある子ども・・・ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく
- ・感性豊かな子ども・・・自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる
- ・感謝できる子ども・・・祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

## 2. 2025 年度の振り返りと 2026 年度重点的に取り組む目標・計画

### 【2025 年度、重点的に取り組む目標】の振り返り

#### ① 互いに尊敬の気持ちを持って接する

—相手に対する思いやりを表現できる人になる—

子どもたちは日々の活動中の何気ない会話の中で、温かい思いに包まれたり、傷ついたりとおとなの想像以上に気持ちが揺らぐものです。感受性豊かなこの時期に、人からしてもらって嬉しかったことを人にお返しして喜んでもらうことの積み重ねが成長の糧になります。一方で、私たちは悲しいことも経験します。しかし悲しいことも大事な経験です。それを繰り返さないために、人を、時には自分を赦すことの尊さを学びます。ここにキリスト教保育の本質が存在します。

今年度、子どもたちが互いに褒め合い、認め合い、赦し合う姿に出会いました。相手への尊敬の気持ちを少しずつ実践できました。その際に相手から掛けられた言葉、温かい表情、そこから生まれた達成感、自信、希望は次への課題に挑戦しようとする子どもの気持ちを後押しします。

子どもはおとなの背中を見て育つと言われていています。おとな同士での尊敬の念が込められた会話、振る舞いを子どもたちはとても嬉しい気持ちで見えていました。今年度の目標はこれで終了ではありません。引き続き一日の終わりに、身近な人々に尊敬の気持ちを持って接することができたか、振り返る時間を持ちたいと思います。

② 心を耕し、子どもたちの好奇心、関心、意欲の芽を伸ばす

—子どもたちの声が届き、保育者がそれを聴き逃さない環境づくりに努める—

保育者は子どもが一人にいる時も、集団にいる時も、一人ひとりの様子を注意深く見守るよう努めました。そして、子どもたちの行動、言動の背後にある、好奇心、関心、意欲をくみ取りました。時に集団にいる時は、子どもたち同士の意見が揃わず調整が困難なこともありましたが、譲り合い、自分たちの役割を認め合い、協力し合う素晴らしさを子どもと共に実感し、子どもにとっても保育者にとっても貴重な経験となりました。関心事は成長と共に変化します。友だちからの影響もあります。しかし「結果より過程」を大事にしている恵泉幼稚園の保育方針は、今後伸びていく芽をさらに伸ばすための力となったのではないのでしょうか。

【2026年度、重点的に取り組む目標】

① 物事を肯定的に捉える

—健全な心を育むために—

現代社会は目まぐるしく価値観が変化しています。その中で、幼児期は一人ひとりの個性を育む重要な時期です。正解を必要としない事にも、夢中になって取り組むことに意味のある時期です。しかしAIが進化し、人が考えなくてもすでに正解がある現代。人は考える機会を失い、悩んだり苦しんだりする経験が軽んじられてしまいます。その一方で、一回の失敗が大きな挫折に繋がることもあり得ます。未来を生きていく子どもたちに、意欲や想像力を大事にしてもらうためには、失敗を恐れず、前向きな発想を抱くことが必要だと考えます。たとえ現状は厳しくても、それは今後の成長に必要なこと。物事を肯定的に捉えることは、心が悩みから解放され、豊かな成長へと繋がります。まさにピンチはチャンスです。幼稚園では子どもたちに「あなたは愛されるために生まれてきた、大事な人」であることを、年齢に応じた保育を通して分かりやすく繰り返し伝え、健全な心を育ててまいります。

② 子どもたちの幸せをより柔軟に考える

—地域の方たちと共にできること—

文部科学省は、学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進しています。茅ヶ崎市にはコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を設置し、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことを可能にし、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めています。

創立91周年を迎える恵泉幼稚園はこれまで多くの卒園生を社会に輩出して参りました。卒園生は幼稚園時代に培った「思いやりの心」、「感謝する心」を大事に、社会に貢献しています。卒園生は幼稚園の宝です。現在、卒園生、卒園生の保護者、地域の方々から、恵泉幼稚園の子どもたちを支援したいという声が届いています。前述のコミュニティ・スクールの考えを、恵泉幼稚園で取り入れることが可能となってきました。この取り組みが実現できるよう、また、将来的にこの取り組みを、幼稚園内だけではなく、地域の子どもたちにも享受していただけるよう進めていきたいと思っております。

### 3. 学校評価結果の取組み

(1)

≪評価項目≫

「おうちの方の学校評価」を実施し、評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。

≪取組み状況≫

2024年度にいただいたご意見を参考に、いくつかの点を改善いたしました。まず、小学校との連携をより密にとり、諸行事・諸活動が重ならないよう設定いたしました。また、夏休み中など長期休暇中の預かり保育の定員をほぼ2倍にした結果、希望者は皆さんご利用いただけるようになりました。これらの結果、2025年度のアンケート結果で97.9%のおうちの方から高評価をいただいたのではないかと思います。これからも、時代が求める恵泉幼稚園の役割を考えながら、いただいたご意見を参考に、2026年度以降も保育にあたって参ります。

(2)

≪評価項目≫

教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。

≪取組み状況≫

保護者アンケートに、恵泉幼稚園の教員のチームワークの良さを挙げてくださった方がいらっしゃいました。教員の自己評価を見てもその点は高い評価がついています。チームワークの良さは、個々の資質の向上にもつながるものです。教員はその重要性を自覚して保育にあたっていることが、アンケートの結果にも繋がったのだと思います。また、今年度も園内研修、オンライン研修などを積極的に取り入れ、自己研鑽に努めました。特にアレルギー対応に関するオンライン研修は本務教員のほとんどが受講しました。今後の課題は、小学校への連携に、より関心を持ち研究していくことです。小学校の授業参観などへの派遣と情報共有など、限られた機会ですが活かして参ります。

以上